

2025年10月6日  
住友生命保険相互会社

## Well-being Initiative 参画企業、SWGs 宣言を共同発表 ～人・社会・地球の調和による持続可能なウェルビーイングの未来をめざして～

住友生命保険相互会社（取締役 代表執行役社長 高田 幸徳（以下「住友生命」））は、Well-being Initiative<sup>※1</sup>の参画企業として、2030年に目標期限を迎えるSDGsの次なる国際アジェンダをめざす「SWGs（Sustainable Well-being Goals）宣言（以下「本宣言」）」を採択し、本日、参画企業と共同で発表しました。SWGsは人・社会・地球が調和し、正の遺産を次世代にのこすことを目指す未来志向のゴールです。

※1 Well-being Initiative は、株式会社日本経済新聞社と株式会社電通が主宰し、公益財団法人 Well-being for Planet Earth および有志の企業や有識者・団体等と連携し2021年3月に立ち上げた企業コンソーシアムで、住友生命は2022年1月より参画しています。Well-being（実感としての豊かさ）を測定する新指標開発やウェルビーイング経営の推進、政府・国際機関への提言、Well-beingをSDGsに続く世界的な政策目標に掲げることを目指しています。  
詳細は右記 URL を参照ください。 <https://well-being.nikkei.com/about/>

本宣言は、人・社会・地球の主要領域におけるウェルビーイングの方向性を提示し、大阪・関西万博のテーマウィーク「SDGs+Beyond いのち輝く未来社会」に合わせて万博会場内で開催された「第7回日経 Well-being シンポジウム」にて発表しました。



## 1. 本宣言について

SWGs (Sustainable Well-being Goals) は、SDGs の次なる国際アジェンダ候補として、2030 年以降を見据えたビジョンです。人・社会・地球の三位一体の調和を重視し、「負の遺産をのこさない」から「正の遺産を創り出す」への転換をめざします。

本宣言は参画企業が共同で採択し、「流域<sup>※2</sup>」や「FR (Future Generations Relations) <sup>※3</sup>」といった新しい視点も取り入れ、日本発の国際的なアジェンダ創出をリードしていくことをめざします。

※2 流域とは、雨が地表面を流れて、ある川に流れでる範囲のことで、「生物多様性国家戦略 2023-2030」において、行政区域を越えてつながっている生態系に対し、流域等を単位として複数の地方公共団体が共同で戦略を策定することも効果的とされています。詳細は右記 URL を参照ください。[https://www.env.go.jp/press/press\\_01379.html](https://www.env.go.jp/press/press_01379.html)

※3 住友生命の FR の取組みは右記 URL を参照ください。<https://www.sumitomolife.co.jp/about/wellbeing/fr/>

### ・本宣言の一部抜粋

#### SWGs による価値創出

人のウェルビーイング：現役世代だけではなく、将来世代もふくめて、主観的にも客観的にも充実した状態

社会のウェルビーイング：地域固有の文化や経済が尊重され、活力があり、平和な状態

地球のウェルビーイング：環境保全・再生と自然との共生を基軸にした持続可能な状態

\*SWGs 宣言の全文は下記 URL もしくは二次元バーコードを参照。

[https://well-being.nikkei.com/news/swgs-declaration\\_20251006.pdf](https://well-being.nikkei.com/news/swgs-declaration_20251006.pdf)



## 2. 賛同企業一覧

- ・アサヒ飲料 米女 太一 代表取締役社長
- ・味の素 佐々木 達哉 取締役執行役専務 (コーポレート本部長)
- ・EY Japan 永吉 正郎 チーフ・タレント・アンド・ウェルビーイング・オフィサー
- ・江崎グリコ 上野 理恵 執行役員 サステナビリティ戦略室室長
- ・NEC ソリューションイノベータ 石井 力 取締役 会長
- ・MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス 船曳 真一郎 取締役社長 グループ CEO
- ・住友生命 高田 幸徳 取締役 代表執行役社長
- ・東京きらぼしフィナンシャルグループ 渡邊 壽信 代表取締役社長 グループ CEO
- ・TOPPAN ホールディングス 石川 智之 執行役員 広報本部長
- ・豊田合成 宮崎 直樹 取締役会長
- ・日清食品ホールディングス 後野 和弘 執行役員 フューチャーフード担当 博士 (工学)
- ・日本航空 斎藤 祐二 代表取締役副社長執行役員・グループ CFO

- ・日本たばこ産業 妹川 久人 執行役員 Chief Sustainability Officer
  - ・パーソルホールディングス 和田 孝雄 代表取締役社長 CEO
  - ・丸井グループ 青井 浩 代表取締役社長 CEO
  - ・三井住友トラストグループ 高倉 透 取締役執行役社長
  - ・森永乳業 大貫 陽一 代表取締役社長
- ほか

### 3. 有識者からのコメント

#### 鈴木寛氏（東京大学公共政策大学院教授 兼 ウェルビーイング研究ユニット代表）

国連が掲げたSDGsは2030年がターゲットで、その次をどうすべきか？まさにBeyond SDGsの議論が世界中で本格化するのに先駆けて、大阪・関西万博から世界に発信されたSWGs宣言は、今後の地球史・世界文明史に大きなインパクトを与えるであろう。

仏のサルコジ元大統領がノーベル賞学者らを招聘し、提唱した「Beyond GDP」の考え方が、OECDのBLI (Better Life Index)、国連のWorld Happiness ReportやSummit of The Futureなどに引き継がれ、そうした流れに呼応して、すでに日本においては、中央・地方政府がWell-beingを最重要政策目標として掲げ、GDPと並ぶ社会指標としてGDW (Gross Domestic Well-being)の調査と公表を学会が主導し、企業・産業界が経営やビジネス展開のなかでSWGsを強力かつ広範に具体化してきている。こうした産学官が和をもって未来を共創している姿を世界中に示し、今後は、未来世代とも連帯・協働し、希望に溢れたWell-beingな地球と社会を響創する、こうした活動を本格的に始動していくのが、このSWGs宣言である。

#### 蟹江憲史氏（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科教授 SFC研究所 xSDG・ラボ代表 Keio STAR 副所長）

今回宣言されたSWGsの考え方には、人類が持続可能な形で生き続けるためにとても大事なことが盛り込まれていると思います。そこには人間が持続可能に生きるための考え方だけではなく、生物としての人間が地球上で生きていくための視点も盛り込まれています。

まずは日本の中で、多くの人々が共有できる価値としての認識が高まれば、それを国際的にも発信していけるでしょう。社会システムが大きく変わろうとしている現在、将来何をめざすのか、明確なビジョンを持つことが大事になっています。丁度現在、2030年を超えた50年後、あるいは2100年を視野に入れた社会のあり方を考える「ビヨンドSDGsプロジェクト」を始めました。ぜひこれからSWGsの考え方も含め、議論を活性化できればと思います。

#### 4. 本宣言の発出に向けた活動について

##### a. 各社経営陣が集い、調印式を実施

SWGｓ宣言の発出に向け、2025年10月2日に参画企業各社の経営層が参加するミーティングをホテルニューオータニにて開催しました。ウェルビーイングの最新動向を踏まえ、将来に向けたビジョンの共有と、参加者による調印を行いました。



##### b. 新聞広告にて発表

2025年10月6日（月）の日本経済新聞・朝刊にて、SWGｓ宣言について発表しました。



また、3文字のアルファベットを使った略語が出てきた。そう思う方もいるかもしれませんが、けれどこのSWGｓ、これからの未来を考える上での重要なキーワード。「Sustainable Well-being Goals」の略になります。この世界から、分断・格差・環境破壊をなくしていくには、どうすればいいのか。行き過ぎた規模の拡大を抑えるには、どうすればいいのか。抜け落ちていたのは、Well-beingの視点。SWGｓは、Well-beingの視点から持続可能な世界を目指す未来志向のゴールです。SDGｓは、将来世代に負の遺産を残さないための、国連が掲げる2030年までの目標。SWGｓが目指すのは、将来世代に正の遺産を残すための、2030年以降に掲げる国際アジェンダです。そのために、私たちWell-being Initiativeでは、5年の歳月をかけて、官民学一体で議論・推進をしてきました。たとえば、既存のGDP(国内総生産)では捉えきれない、一人ひとりのWell-beingを測定する指標として、GDW(Gross Domestic Well-being / 国内総充実)を開発。四半期調査を実施・発表してきた取り組みも、そのひとつです。そして本日、大阪・関西万博にて、企業の垣根を超えた18社が共同で、SWGｓ宣言を発信します。日本発の概念を、世界へ。日本が昔から大切にしてきた「和」の精神を、Well-beingな世界への架け橋にしていく。私たちはこのSWGｓ宣言が、未来を大きく変える確かな一歩になる、と信じています。宣言の全文はこちら



### 人と社会と地球の調和による、持続可能なウェルビーイングの未来へ



\*Well-being Initiativeは、日本経済新聞社が有志の企業や有識者、団体等と連携し、2021年3月に立ち上げた企業コンソーシアムです。本コンソシアムでは、ウェルビーイング(実態としての豊かさ)を測定する新指標開発やウェルビーイング経営の推進、政府・団体機関への提言、Well-beingをSDGに結ぶ世界的な政策目標に掲げることを目指しています。

#### 5. 住友生命のウェルビーイングの取組み

住友生命は「社会公共の福祉に貢献する」というパーパスのもと、一人ひとりのよりよく生きる＝ウェルビーイングに貢献する「なくてはならない保険会社グループ」を将来のありたい姿としています。

従来の生命保険の「リスクに備える」役割だけでなく、「リスクを減らす」新たな価値を提供する、健康増進型保険“住友生命「Vitality」”。この「Vitality」を中心として、お客さまの生活に根差した課題やニーズに寄り添ったサービスを提供し、そのサービスを広くお客さまにお届けしていきます。

また、2025年9月より、主観的ウェルビーイングを体感し育むことを支援する、スマートフォンアプリ「シアフル」の提供を開始しました。

\*住友生命公式HP

(ウェルビーイング) <https://www.sumitomolife.co.jp/about/wellbeing/index.html>

(住友生命「Vitality」) <https://vitality.sumitomolife.co.jp/>

(スマートフォンアプリ「シアフル」) <https://www.sumitomolife.co.jp/about/wellbeing/waas/waasapp/index.html>

以上